

遊休農地解消モデルほ場の取組み

(奈良県大淀町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

- 奈良県中部に位置する中山間地域。農地面積は524ha(水田275ha畑249ha)となっている。
- 農業従事者数は2005年から10年間で約25%減少する一方、70歳以上の割合は30%を超え、担い手の減少、高齢化が進んでおり、農地の遊休化が問題となっている。



2 課題解決に向けた活動(遊休農地の解消へ取組み)

- 平成26年から遊休農地解消の取組みとして、町内にモデルほ場を設置。
- 農業委員が自ら、農地再生作業を行い、委員が耕作し、地域での遊休農地解消のモデルとなる取組みを行っている。
- 収穫した農作物は町内公立幼稚園、保育所、小中学校の給食食材提供を行っている。また、幼稚園児、保育所園児に対しては、収穫体験を実施し食育にも一役買っている。
- 町が開催する農林水産物品評会において、収穫した大根をふろふき大根に調理し、ふるまい、取組みをPRしている。



園児による収穫体験

3 活動(取組と工夫)の結果

○遊休農地の面積が64haから62haに減少したものの、当活動について町民にあまり浸透しておらず、高齢化による離農や次代の担い手の不足の解消には至っていない。

⇒今後、次代の担い手の発掘・育成だけではなく、福祉事業所と連携(農福連携)し、遊休農地の解消に取り組む。